



読書

先日、学校評価アンケートを実施したところ最も評価が低かったのが「私は、学校や家で読書をよくしている」という子どもたちへの質問項目でした。

平均値が 2.87 (満点 4)、4~1 の自己評価で 2 (あまりあてはまらない) が 35 人、1 (まったくあてはまらない) が 18 人で、2 と 1 をあわせると約 36% が読書に何かしらのハードルをもっていることが垣間見えました。

しかし、子どもたちが素直に回答してくれたことは、とてもいいことだと思います。ここから読書に子どもたちが関心をもって取り組める手立てを試行錯誤することが出来るからです。

そこで、今回は読書について綴ってみたいと思います。

2022 年のある調査では小学生の約 49% が平日の読書時間が「0 分」、平均読書時間は約 15 分という結果だったそうです。また、小・中・高と学年が上がるにつれて読書時間 0 分の割合は増え、中学生では約 53%、高校生では 60% を超えているそうです。

たしかに中高校生は部活動やその他に費やす時間も増えてくるかと思いますが、しながら、スマホの使用時間が 1 日 3 時間以上の割合は小学生では約 20%、中高校生は 30% を超えるという調査結果もあります。決して読書の時間がまったくないというわけでもなさそうです。

読書の一番の効果を私は「想像力を伸ばすこと」だと考えます。本は、文字情報からその場面を想像しながら読まないといけません。絵本であってもその場面のすべてを表現してあるわけではないと思います。この言葉は誰が言っているのか、どんな感じで言っているのか、挿絵がなければ、登場人物の顔まで想像しないといけません。

現実世界での想像力は、相手の気持ちを慮ることや次に起こりそうなことを見通す力として望ましい社会の形成に役立つ力となります。

昨今の様々な事件や事故のニュースを見るたびに想像力の欠如ではないかと思うことがあります。何も読書ばかりが想像力を向上させるものではないかと思いますが、その一端は担えるのではとも思います。

予想外の早い梅雨明けとなりましたが、これからは日差しによっては外に出るのを控えた方がいい日もあります。そんな時は読書をするのもいいかもしれません。